

平成 30 年 3 月 23 日

平成 30 年度 学年末終業式

誇り高き巻高生の諸君、こんにちは。こうして全体で集まるのは今年度最後となります。1 年を振り返ると皆さんは間違いなく成長しています。学習への取組姿勢、生活態度、他人を思いやる姿勢など、巻高生として必要なことが、身に付いてきていると感じています。

更なる成長を願い皆さんにお話しをします。

これからの時代様々な能力を求められますが、その一つにコミュニケーション力があります。人が集団生活を営み共存するためのベースとなるものであり、大学や社会で学び活躍するためには不可欠な能力です。私は真のコミュニケーションとは、言葉や文字で伝えるだけでなく、自分の心を相手の心に伝えることだと思いますが、皆さんはどう考えますか。

では、コミュニケーション力を高めるにはどうしたらよいでしょうか。NHKニュースウオッチ9のメインキャスターを務めた、寺泊出身の大越健介さんは「人の引き出しを借りる力」の大切さを言っています。

ある造園業者のお母さんが、息子さんからお客さんとの会話が弾むよう、政治や経済の知識を付けるよう言われ困っていると、相談してきたそうです。大越さんは「無理に勉強する必要はありませんよ」と言ったそうです。

その理由は、すでにお母さんは、コミュニケーション上手であったからです。すなわち、お客さんに自分の考えを一方向的に話すのではなく、お客さんである聞き手に寄せた園芸の話をする。自分の現在位置を短い言葉で説明し、その間しっかりとこちらの目を見て、決して注意をそらさない。相手が意見をする番になったらびたりと押し黙り、やはり目を見て真剣に耳を傾ける。このお母さんは相手をリスペクト（尊重）する会話をする人だそうです。

大越さんは、「あなたの話しぶりから、相手は自分が尊重されていると感じ、相手もあなたの高いプロ意識に敬意を払う。ならばそれにまさるコミュニケーションはないはず」と言ったそうです。

知識や教養は人生のサプリメントであり、あるにこしたことはないが、どのような教養人であっても、世の中のあらゆる分野をカバーできる知識つまり「引き出し」など持ち合わせない。だから上手に人の引き出しを借りるコミュニケーション力が必要となる。巡って、自分の小さな引き出しを差し出す機会もあるだろうと。

ポイントは相手をリスペクトする。すると相手も自分をリスペクトしてくれ、心と心の対話となる。そして相手の知識や経験、良さといった引き出しを借り、時にこちらの引き出しを相手に出すことでコミュニケーション力を上げるということでしょうか。

大越さんの話は、皆さんにとって必ず身に付けなければならない、仲間と協働しながら課題を解決するコミュニケーション力向上に役立つはずです。

明日から春休みが始まります。短い期間ですが、どうか有効に過ごしてください。具体的には自分の1年間の振り返りを行い、来年度どのような学校生活を送るべきか、自分で考え実行する期間です。助走つまり準備がうまくいけば、新年次からスタートダッシュができます。進路の希望先を調べ、新しい教科書を開き、新学期からどういう内容を勉強するか頭に入れるなど、やるべきことはいくらでもあります。

私の好きな言葉に「まず動け・未来はその先にある」という言葉があります。目標ももたず何も考えずただ学校に来るだけ、これは最悪です。目標をもつ、やらなければいけないことを考えイメージする。これはよいことです。でもそこで終わっては不十分です。

目標を持つ、考えたら行動するここが大事です。失敗することもあるでしょう。でも失敗から学ぶことができます。そして同じ失敗は2度としないことです。行動して人と協力して成果を出すよう努力する。その過程で成長し自分の未来が開けると思います。

受け身の姿勢でなく、自分から積極的に動き、学ぶことが、心身とも大きく成長する時期にある皆さんには必要ことだと思います。

自分を見失わず、苦難から逃げず、自分の力で歩いていく。そんな高校生活を送って欲しいと思います。そのためのスタートを切る大切な春休みにして欲しいと思います。

以上、終業式の講話とします。